

指定要件等	必須:A, 非必須:B	25 愛知県厚生農業協同組合連合会海南病院
所在地		海部郡弥富町大字前ヶ須新田字南本田396
<b>I 地域がん診療拠点病院(以下「拠点病院」)の指定</b>	充足度:	
2次医療圏に1カ所程度(2次医療圏名、人口、がん診療拠点病院数)		愛知県(海部津島医療圏) 328,514人(平成15年10月1日現在)
入院患者に占めるがん患者の割合	参考	28.9%(平成16年1月31日現在)
<b>II 拠点病院の指定要件</b> (継続的に全人的な質の高いがん医療を提供するための要件)		
<b>1 診療体制</b>		
(1)診療機能		
①我が国に多いがん(肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん、等)につき専門的医療体制を有する	A	○「参考資料1」 P284~P289
②緩和医療の提供体制	A	○緩和ケア病棟(18床)については、平成16年6月21日に承認を受けた。緩和医療チームの内容
③地域医療機関・大学病院等との連携・協力体制	A	○質の高い診療機関との連携状況として、愛知県がんセンター、名古屋大学病院、名古屋市立大学病院、愛知医科大学病院などと病病連携している。また、地域の医療機関が支援を必要とする場合は、検診、精検、手術の紹介を受けている
(2)診療従事者		
①医療機関や患者からの相談に対する医師の配置	A	○常勤の医師などにより対応
②下記に掲げる者の配置		
○専門的な看護に携わる看護師	B	○77名
○精神保健福祉士	B	○4名
○臨床心理に携わる者	B	○4名
○臨床診療録管理に携わる者	B	○2名
○ソーシャルワークに従事するもの	B	○8名
○放射線治療医又は連携による体制の確保	A	○日本放射線腫瘍学会認定医 常勤1名
○病理専門医又は連携による体制の確保	A	○日本病理学会認定病理医 常勤1名
(3)医療施設		
①医療相談室の設置	A	○3室
②集中治療室の設置	B	○8床
③無菌病室の設置	B	○7床
④放射線治療施設の設置又は連携による体制確保	A	○有(体外照射全般を施行する放射線治療施設160.64㎡)
(4)医療機器		
○高度な医療機器の設置	B	○CT2台(うち、1台は8列高速スキャン)、MRI2台、ガンマカメラ1台、電子スコープ6台など
○上記の医療機器の操作・保守に精通した者の配置	B	○診療放射線技師常勤17名、内視鏡担当医師常勤11名
(5)院内がん登録システム(整備見込みを含む)の確立	A	○平成14年8月から開始し、平成15年度は平成16年2月1日現在170名を登録。平成16年4月から院内LANを通じたがん登録が可能。
<b>2 研修体制</b>		
(1)地域の医療従事者に対する研修の実施	A	○例年、病診連携カンファレンス等を実施。平成16年度は、がん診療及び緩和ケアに関する講演会を開催予定。
(2)院内の医療従事者に対する研修の実施	A	○医局勉強会、消化器専門カンファレンス、緩和ケア勉強会及びCPCを年間各々10回程度実施。
<b>3 情報提供体制</b>		
(1)ホームページ等による地域におけるがん診療情報の適切な公開	A	○ホームページ、病院広報誌などにより、最新のがん治療内容の情報提供を実施。今後、5年生存率などの情報提供を行っていく。
(2)地域の医療機関からの診療に関する相談等に応じた情報提供	A	○地域医療連携紹介システム、地域医療研修センターを通じてがんの診断・治療の具体的相談に対応。
(3)総合的ながん情報の収集提供(5年生存率等)	A	○がん情報の提供は、ホームページなどで実施。今後は5年生存率などを公開していく予定。さらに、講演会や研修会を通じて地域へ最新のがん情報を提供予定。

指定要件等	必須:A 非必須:B	26 小牧市民病院	
所在地		小牧市常普請一丁目20番地	
<b>I 地域がん診療拠点病院(以下「拠点病院」)の指定</b>		充足度	
2次医療圏に1カ所程度(2次医療圏名、人口、がん診療拠点病院数)			愛知県(尾張北部医療圏) 714,294人(平成15年10月1日現在)
入院患者に占めるがん患者の割合	参考		47.5%(平成16年7月31日現在)
<b>II 拠点病院の指定要件</b> (継続的に全人的な質の高いがん医療を提供するための要件)			
<b>1 診療体制</b>			
<b>(1)診療機能</b>			
①我が国に多いがん(肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん、等)につき専門的医療体制を有する	A	○	「参考資料1」 P290~P296
②緩和医療の提供体制	A	○	緩和ケア病棟は無し、緩和医療チームによる診療体制
③地域医療機関・大学病院等との連携・協力体制	A	○	地域の医療機関として、厚生連昭和病院、厚生連愛北病院などと協力体制を構築し、また、必要時には症例コンサルトを名古屋大学病院から受けている。
<b>(2)診療従事者</b>			
①医療機関や患者からの相談に対する医師の配置	A	○	常勤の医師などにより対応
②下記に掲げる者の配置			
○専門的な看護に携わる看護師	B	○	14名
○精神保健福祉士	B	×	0名
○臨床心理に携わる者	B	○	2名
○臨床診療録管理に携わる者	B	○	3名
○ソーシャルワークに従事するもの	B	○	3名
○放射線治療医又は連携による体制の確保	A	○	日本放射線腫瘍学会認定医 常勤3名
○病理専門医又は連携による体制の確保	A	○	日本病理学会病理専門医 常勤1名
<b>(3)医療施設</b>			
①医療相談室の設置	A	○	1室
②集中治療室の設置	B	○	30床
③無菌病室の設置	B	○	6床
④放射線治療施設の設置又は連携による体制確保	A	○	高エネルギーリニアックX線治療
<b>(4)医療機器</b>			
○高度な医療機器の設置	B	○	ガンマナイフシステム1台、磁気共鳴コンピュータ断層装置(1.5T)3台、ライナック装置1台
○上記の医療機器の操作・保守に精通した者の配置	B	○	
<b>(5)院内がん登録システム(整備見込みを含む)の確立</b>			
	A	○	平成9年4月開始、平成15年登録者数 981名
<b>2 研修体制</b>			
(1)地域の医療従事者に対する研修の実施	A	○	尾張臨床懇話会及び尾張美濃血液懇話会を毎年各1回開催
(2)院内の医療従事者に対する研修の実施	A	○	臓器別各科合同カンファレンス、院内化学療法研修会等
<b>3 情報提供体制</b>			
(1)ホームページ等による地域におけるがん診療情報の適切な公開	A	○	ガンマナイフ治療等毎月担当医師がテーマを決めて掲載。
(2)地域の医療機関からの診療に関する相談に応じた情報提供	A	○	登録された医療機関に小冊子を配布
(3)総合的ながん情報の収集提供(5年生存率等)	A	○	ホームページにて各診療科の特徴及び前年度の診療実績(症例数、主な手術件数等)を紹介。

指定要件等	必須:A, 非必須:B	27 三重県厚生農業協同組合連合会 松阪中央総合病院
所在地		三重県松阪市川井町字小望102
<b>I 地域がん診療拠点病院(以下「拠点病院」)の指定</b>	充足度:	
2次医療圏に1カ所程度(2次医療圏名、人口、がん診療拠点病院数)		三重県(南勢志摩医療圏)※同一医療圏で指定済 463, 693 人(平成16年3月31日現在)
入院患者に占めるがん患者の割合	参考	14.3%(平成15年)
<b>II 拠点病院の指定要件</b> (継続的に全人的な質の高いがん医療を提供するための要件)		
<b>1 診療体制</b>		
(1)診療機能		
①我が国に多いがん(肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん、等)につき専門的医療体制を有する	A	○ 「参考資料1」 P297~P304
②緩和医療の提供体制	A	○ 緩和ケアチームは本年4月より発足し、医師6名(麻酔科、外科、内科、精神科、リハビリ科)薬剤師3名、看護師10名、理学療法士、管理栄養士、臨床心理士、MSW(精神保健福祉士)各1名の計23名の多職種で構成
③地域医療機関・大病院等との連携・協力体制	A	○ 県下中南勢地域の開業医、病院(済生会松阪中央病院、松阪市民病院等)とも連携協力体制をとっている
(2)診療従事者		
①医療機関や患者からの相談に対する医師の配置	A	○ 化学療法外来専任医師:1名、点滴治療室担当医師:15名 画像診断専門医師:3名、緩和医療担当医師:3名
②下記に掲げる者の配置		
○専門的な看護に携わる看護師	B	○ 点滴治療室専任看護師:2名(1名は愛知県がんセンターで研修中)
○精神保健福祉士	B	○ 精神保健福祉士:1名
○臨床心理に携わる者	B	○ 臨床心理士:1名
○臨床診療録管理に携わる者	B	○ 診療情報管理者:12名(専任2名、兼務10名)
○ソーシャルワークに従事するもの	B	○ 社会福祉士:4名
○放射線治療医又は連携による体制の確保	A	○ 放射線科医師:4名
○病理専門医又は連携による体制の確保	A	○ 病理専門医師:2名
(3)医療施設		
①医療相談室の設置	A	○ 有(MSWが3名で対応)
②集中治療室の設置	B	○ 有(6床)
③無菌病室の設置	B	○ 有
④放射線治療施設の設置又は連携による体制確保	A	○ 有
(4)医療機器		
○高度な医療機器の設置	B	○ MRI 2台、CT 2台、RI 2台、医療用X線デジタル画像診断装置 2種類(CR・FPD)、マンモグラフィ 1台、リニアック 1台、シネ血管連続撮影装置 1台、DSA 1台ほか
○上記の医療機器の操作・保守に精通した者の配置	B	○ 放射線科医師4名と診療放射線技師15名
(5)院内がん登録システム(整備見込みを含む)の確立	A	○ 平成16年度内に開始予定
<b>2 研修体制</b>		
(1)地域の医療従事者に対する研修の実施	A	○ 地域の医療従事者への研修については、症例検討会をはじめ積極的に実施している
(2)院内の医療従事者に対する研修の実施	A	○ 院内の医療従事者への研修については、研修会、学術講演会、症例検討会等に積極的に参加している
<b>3 情報提供体制</b>		
(1)ホームページ等による地域におけるがん診療情報の適切な公開	A	○ ホームページ等による情報の公開を行っており、今後より充実する予定
(2)地域の医療機関からの診療に関する相談等に応じた情報提供	A	○ 地域の医療機関からの診療に関する相談等を受けた場合には、必要な情報提供を行っている
(3)総合的ながん情報の収集提供(5年生存率等)	A	○ 各種学会に定期的に参加し、情報の収集及び提供等を実施している 今後は、がん患者の5年生存率等の統計資料を整備し、総合的ながんの情報収集に積極的に取り組むこととしている

指定要件等	必須:A, 非必須:B	28 市立長浜病院
所在地		滋賀県長浜市大茂玄町313
<b>I 地域がん診療拠点病院(以下「拠点病院」)の指定</b>		充足度:
2次医療圏に1カ所程度(2次医療圏名、人口、がん診療拠点病院数)		滋賀県(湖北医療圏) 166,432人(平成16年10月1日現在)
入院患者に占めるがん患者の割合	参考	16.0%
<b>II 拠点病院の指定要件</b> (継続的に全人的な質の高いがん医療を提供するための要件)		
<b>1 診療体制</b>		
(1)診療機能		
①我が国に多いがん(肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん、等)につき専門的医療体制を有する	A	○ 「参考資料1」 P305~P369
②緩和医療の提供体制	A	○ 緩和ケア病棟なし 緩和医療チームによる緩和医療を行っている。
③地域医療機関・大学病院等との連携・協力体制	A	○ 京都大学、滋賀医科大学、岐阜大学等と連携協力体制を有している。
(2)診療従事者		
①医療機関や患者からの相談に対する医師の配置	A	○ 画像診断10人、化学療法14人、緩和医療11人
②下記に掲げる者の配置		
○専門的な看護に携わる看護師	B	△ 認定看護師は現在のところ配置していない。今後、研修派遣について計画中。
○精神保健福祉士	B	x
○臨床心理に携わる者	B	○ 1人(心療内科医)
○臨床診療録管理に携わる者	B	○ 1人
○ソーシャルワークに従事するもの	B	○ 2人
○放射線治療医又は連携による体制の確保	A	○ 常勤認定医
○病理専門医又は連携による体制の確保	A	○ 非常勤認定医
(3)医療施設		
①医療相談室の設置	A	○ 1室
②集中治療室の設置	B	○ 1病棟(8床)
③無菌病室の設置	B	○ 3室
④放射線治療施設の設置又は連携による体制確保	A	○ リニアック室(1室)有り。 放射線治療認定医を常時配置
(4)医療機器		
○高度な医療機器の設置	B	○ X線投資装置、内視鏡機器、CT、MR、腹腔鏡、超音波断層装置、ハーモニックカール、デジタル、TV、アンギオ等
○上記の医療機器の操作・保守に精通した者の配置	B	○ 医師15名、看護師7名、放射線技師16名、臨床工学技師5名他
(5)院内がん登録システム(整備見込みを含む)の確立	A	○ 平成13年度に確立 病歴管理を中心に登録・追跡登録者数1,910人
<b>2 研修体制</b>		
(1)地域の医療従事者に対する研修の実施	A	○ 各種研究会の運営に関わり研修会などを開催する他、月に一度地域開業医を対象に生涯教育研修会を開催しているか
(2)院内の医療従事者に対する研修の実施	A	○ 専門医別画像診断カンファレンス週1回、臨床病理カンファレンス2ヶ月に1回。各診療科において症例検討会、抄読会、勉強会、合同カンファレンスを実施
<b>3 情報提供体制</b>		
(1)ホームページ等による地域におけるがん診療情報の適切な公開	A	○ ホームページを通じ、医療従事者や住民に情報を提供している
(2)地域の医療機関からの診療に関する相談に応じた情報提供	A	○ 近隣他病院からの診療に関する相談に応じている。また、医院や診療所からの画像診断検査の依頼や読影依頼、検査治療の依頼に応じている
(3)総合的ながん情報の収集提供(5年生存率等)	A	○ 各種学会に定期的に参加し、情報の収集及び提供等を実施している

指定要件等	必須:A, 非必須:B	29 大阪市立総合医療センター	
所在地		大阪市都島区都島本通2丁目13番22号	
<b>I 地域がん診療拠点病院(以下「拠点病院」)の指定</b>		充足度:	
2次医療圏に1カ所程度(2次医療圏名、人口、がん診療拠点病院数)			大阪市2次医療圏 2,598,774人(平成12年10月1日現在)
入院患者に占めるがん患者の割合	参考		35.9%(平成14年度)
<b>II 拠点病院の指定要件</b> (継続的に全人的な質の高いがん医療を提供するための要件)			
<b>1. 診療体制</b>			
<b>(1) 診療機能</b>			
①我が国に多いがん(肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん、等)につき専門的医療体制を有する	A	○	「参考資料1」 P370~P375
②緩和医療の提供体制	A	○	緩和ケア病棟なし、緩和医療提供体制あり
③地域医療機関・大学病院等との連携・協力体制	A	○	連携医療機関 病院243箇所、診療所794ヶ所 受入れ患者数11,227人
<b>(2) 診療従事者</b>			
①医療機関や患者からの相談に対する医師の配置	A	○	学会認定資格を有する専門医等により対応
②下記に掲げる者の配置			
○専門的な看護に携わる看護師	B	×	
○精神保健福祉士	B	○	1名
○臨床心理に携わる者	B	○	6名
○臨床診療録管理に携わる者	B	○	2名(委託職員)
○ソーシャルワークに従事するもの	B	○	ケースワーカー3名(委託職員)
○放射線治療医又は連携による体制の確保	A	○	放射線治療医 2名/病理専門医 2名(常勤) 7名(非常勤)
○病理専門医又は連携による体制の確保	A	○	
<b>(3) 医療施設</b>			
①医療相談室の設置	A	○	2室
②集中治療室の設置	B	○	10床
③無菌病室の設置	B	○	7床
④放射線治療施設の設置又は連携による体制確保	A	○	リニアック室、ガンマナイフ室、腔内照射治療室
<b>(4) 医療機器</b>			
○高度な医療機器の設置	B	○	リニアック、ガンマナイフ、腔内治療装置、ハイパーサーミア、放射線治療計画位置決め装置、MRI、MDCT、血管撮影装置、CRX線撮影装置等
○上記の医療機器の操作・保守に精通した者の配置	B	○	各医療機器あたりの操作・保守に精通した者の数 [7ページ]
<b>(5) 院内がん登録システム(整備見込みを含む)の確立</b>			
	A	○	平成5年から院内がん登録実施
<b>2. 研修体制</b>			
(1)地域の医療従事者に対する研修の実施	A	○	市民公開講座、医療従事者への勉強会・セミナー等開催
(2)院内の医療従事者に対する研修の実施	A	○	カンファレンス、看護研究会、研修等開催
<b>3. 情報提供体制</b>			
(1)ホームページ等による地域におけるがん診療情報の適切な公開	A	○	ホームページには病院概要、診療科案内、受診案内、病院連携等を掲載
(2)地域の医療機関からの診療に関する相談等に応じた情報提供	A	○	診療科ごとの診療案内、専門分野等を「診療科ご案内」としてマニュアル化し、総合医療センター地域医療連携協議会を構成している。大阪市内の主要医療機関等に情報提供している
(3)総合的ながん情報の収集提供(5年生存率等)	A	○	大阪府地域がん登録に参加。大学病院及び大学関連病院間でがん治療に関する情報収集を行っている。今後、5年生存率や各がんについての最新の知識や治療成績を公表していく予定

指定要件等	必須:A, 非必須:B	30 奈良県立医科大学附属病院	
所在地		奈良県橿原市四条町840番地	
<b>I 地域がん診療拠点病院(以下「拠点病院」)の指定</b>		充足度	
2次医療圏に1カ所程度(2次医療圏名、人口、がん診療拠点病院数)			奈良県(中和保健医療圏) 378,229人(平成12年10月1日 国勢調査人口)
入院患者に占めるがん患者の割合	参考		10.8%(平成14年度)
<b>II 拠点病院の指定要件</b> (継続的に全人的な質の高いがん医療を提供するための要件)			
<b>1 診療体制</b>			
<b>(1) 診療機能</b>			
①我が国に多いがん(肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん、等)につき専門的医療体制を有する	A	<input type="radio"/>	「参考資料1」 P376～P390
②緩和医療の提供体制	A	<input type="radio"/>	緩和ケア病棟 無 各病棟が独自で麻酔・ペインクリニック科と連携して緩和ケアに取り組んでいる。特に放射線病棟・肺がん患者がいる病棟では緩和ケアに精通した看護師を配置し、専門的な看護を実施している。
③地域医療機関・大学病院等との連携・協力体制	A	<input type="radio"/>	地域の医療機関との連携・協力を実施している
<b>(2) 診療従事者</b>			
①医療機関や患者からの相談に対する医師の配置	A	<input type="radio"/>	地域医療機関等からの相談に対応できる医師の配置
②下記に掲げる者の配置		<input type="radio"/>	
○専門的な看護に携わる看護師	B	<input type="radio"/>	日本看護協会等主催の緩和ケア等に関する研修受講看護師:約90名
○精神保健福祉士	B	<input type="radio"/>	1名
○臨床心理に携わる者	B	<input type="radio"/>	1名
○臨床診療録管理に携わる者	B	<input type="radio"/>	8名
○ソーシャルワークに従事するもの	B	<input type="radio"/>	3名
○放射線治療医又は連携による体制の確保	A	<input type="radio"/>	19名
○病理専門医又は連携による体制の確保	A	<input type="radio"/>	5名
<b>(3) 医療施設</b>			
①医療相談室の設置	A	<input type="radio"/>	3室
②集中治療室の設置	B	<input type="radio"/>	ICU:15床
③無菌病室の設置	B	<input type="radio"/>	2室
④放射線治療施設の設置又は連携による体制確保	A	<input type="radio"/>	有
<b>(4) 医療機器</b>			
○高度な医療機器の設置	B	<input type="radio"/>	リニアック:2台 CT:3台 MRI:2台 RI診断装置:3台 血管造影装置:5台 腔内放射線治療装置:1台
○上記の医療機器の操作・保守に精通した者の配置	B	<input type="radio"/>	放射線技師:36名
<b>(5) 院内がん登録システム(整備見込みを含む)の確立</b>			
	A	<input type="radio"/>	昭和60年整備
<b>2 研修体制</b>			
(1)地域の医療従事者に対する研修の実施	A	<input type="radio"/>	大学出身医師を中心に、各医療機関とカンファレンスを実施し診療例の検討等を行っている。
(2)院内の医療従事者に対する研修の実施	A	<input type="radio"/>	各診療科において、毎週カンファレンスを実施して各個人の能力を高めるとともに、学会等へ参加している。
<b>3 情報提供体制</b>			
(1)ホームページ等による地域におけるがん診療情報の適切な公開	A	<input type="radio"/>	年度別悪性腫瘍の登録数の掲載 院内カンファレンスの掲載 各課研修指定と学会認定医の掲載
(2)地域の医療機関からの診療に関する相談等に応じた情報提供	A	<input type="radio"/>	県医大病院課をとおして、CT、MRI、シンチグラフィ等の検査に関する情報を提供している。 毎年、診療科案内を作成して地域医療機関に配布している。
(3)総合的ながん情報の収集提供(5年生存率等)	A	<input type="radio"/>	各種学会に定期的に参加し、情報の収集及び提供等を実施している。 また、がん患者5年生存率の情報提供に向けての準備中である。